Form No. 3421-458 Rev A

TORO®

Count on it.

オペレーターズマニュアル

全天候キャブ

LT シリーズのトリプルターフモアおよび Groundsmaster® 3400 シリーズのトラクションユニット用

モデル番号02895—シリアル番号 400000000 以上

製品の登録は www.Toro.com.
この文書は翻訳です。 (JA)

CE

3421-458 A

この製品は、関連する全ての欧州指令に適合しています。詳細についてはこの冊子の末尾にあるDOI適合宣誓書をご覧ください。

はじめに

このキャブには、横転保護バーISO:21299適合品および全天候キャブが含まれています。キャブ内部の快適性を高めるべく、ヒーター、エアコン、前面風防曇止め装置、および防音システムを搭載しています。

このキットを使用し、さらにオレンジ色のビーコンが必要な場合には、サプレストビーコン・キット111-7134を取り付けてください。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からない、適切で安全な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

弊社のウェブサイト www.Toro.com で安全講習や運転講習の狩猟、アクセサリ情報の閲覧、代理店についての情報閲覧、お買い上げ製品の登録などを行っていただくことができます。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図 1にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

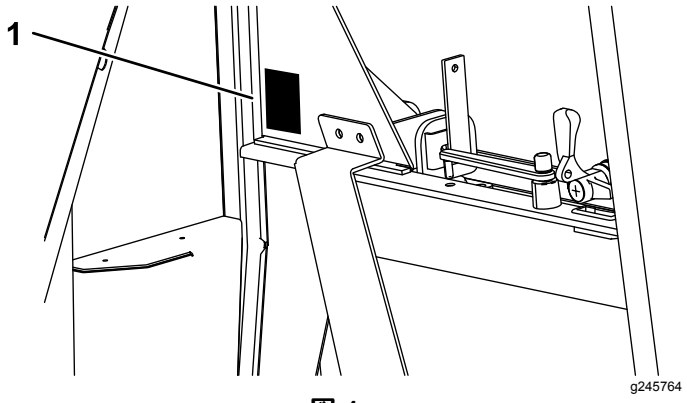


図 1

1. 銘板取り付け位置

モデル番号_____

シリアル番号 _____

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号図 2を使用しております。これらは死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから、必ずお守りください。



図 2

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要** は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

目次

安全について 3
キャブ装着機を使用できる法面の最大角度 3
安全ラベルと指示ラベル 4
製品の概要 6
各部の名称と操作 7
仕様 8
アタッチメントとアクセサリ 9
運転操作 9
暖房システムの操作 9
初めて運転する前に 9
エアコンシステムの操作 9
ワイパーとウォッシャーの使用方法 9
ウオッシャー液ボトルへの洗浄液の補充 10
ウインドウの使用方法 10
ドアの操作方法 10
ミラーの調整 11
保守 12
推奨される定期整備作業 12
冷媒の圧力を点検する 13
圧力正常でない場合の判断 13
冷媒の量の点検 13
コンプレッサの電磁クラッチの点検 14
ドレンチューブの点検 14
コンプレッサのファンベルトの点検 15
キャブを倒すには 15
ヒューズの搭載位置 17
マシンとキャブの洗浄 17
保管 18
図面 19

© 2018—The Toro® Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420

連絡先 www.Toro.com.
Printed in the UK
禁無断転載

安全について

⚠ 警告

安全な作業手順を守らないと、人身事故を起こす危険があります。

実際の作業に掛かるまえに、以下のことを必ず行ってください

- **マシンの *オペレーターズマニュアル*を読むこと。**
- **エンジンをOFFにしてキーを抜き取る。**
- **駐車ブレーキを掛ける。**
- **油圧システム内部に圧力が掛かっていない状態にする。**
- **カッティングユニットが床に完全に降下しているのを確認する。**

⚠ 警告

適切な保護具を着用せずにこの機械の運転や整備を行うと、けがをするなどの危険が大きくなります。

整備作業を行う際には、必ず適切な防具類を着用してください。

⚠ 警告

安全サポートブラケットを使用せずにこの機械の整備などを行うと、けがをするなどの危険が大きくなります。

運転台の下、キャブの下で整備作業を行う場合には、必ず安全サポートブラケットを取り付けてください。

⚠ 警告

機械の電気系統に不用意に触れると感電する危険があります。

電気系統の作業を実際に始める前に、必ず、バッテリー端子からケーブルを外しマイナスケーブルを先に外すこと、バッテリーの端子と機械の金属部分が接触していないことを確認してください。

重要 **キャブ付き車両を運転するときは、必ずシートベルトを着用してください。**

重要 **芝刈り機を法面で使用する場合の注意点などについては、芝刈り機の *オペレーターズマニュアル*を参照してください。**

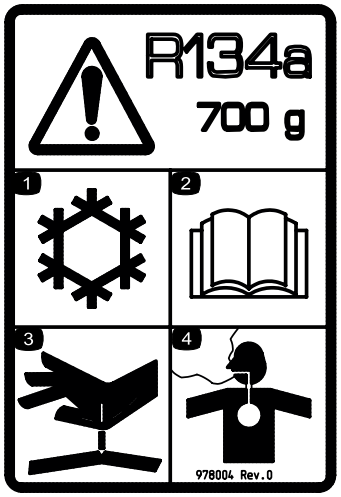
いつも最高の性能と安全性を維持するために、必ずToroの純正部品をご使用ください。他社の部品やアクセサリを御使用になると危険な場合があり、製品保証を受けられなくなる場合がありますのでおやめください。

キャブ装着機を使用できる法面の最大角度

このキャブは、この文書の表紙に記載されている刈り込み装置に搭載することができます。キャブを取り付けた機械とそうでない機械とでは、作業可能な法面の角度が異なります。これらについては、機体左側にある収納ボックスに貼付されているステッカーをご覧ください。それぞれの芝刈り機にこのキャブを取り付けた場合の最大法面角度については、安全ラベルと指示ラベル (ページ 4)をご覧ください。

安全ラベルと指示ラベル

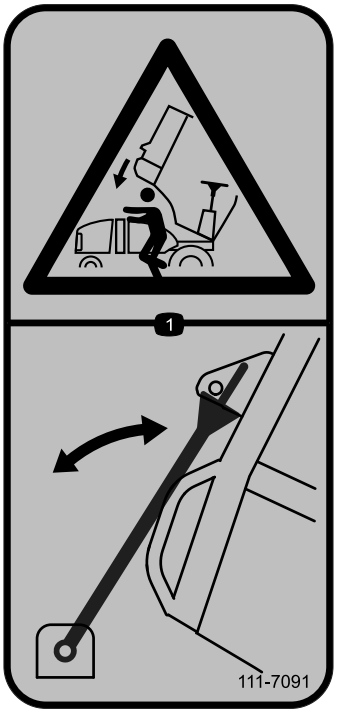
危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。



decal978004

978004

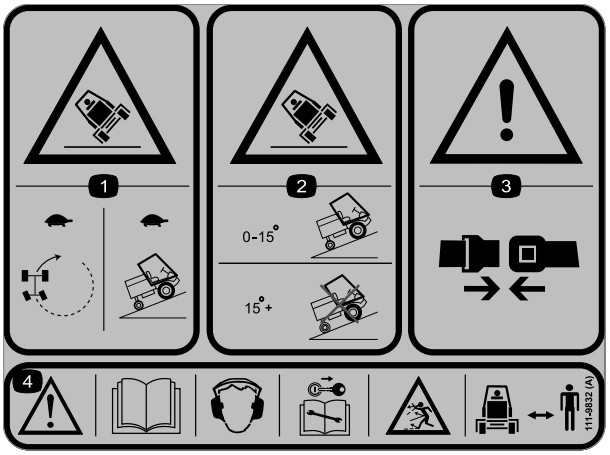
1. クーラー/エアコンシステム
2. *オペレーターズマニュアル* を読むこと。
3. 高圧の流体 身体に当たると体内に入る危険。
4. 有毒ガスまたは有害ガス窒息の危険



decal111-7091

111-7091

1. 押しつぶされる危険; 必ずフードステイを使用すること。

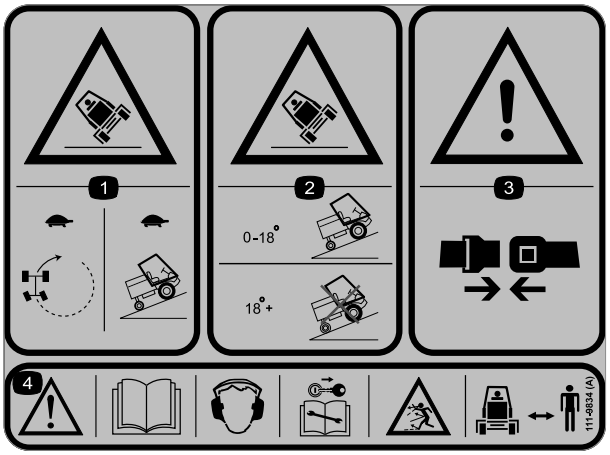


decal111-9832

111-9832

グランドマスター 3400モデル 30651 および LT-F3000モデル 30659

1. 転倒の危険旋回は速度を落として、法面走行は低速で。
2. 転倒の危険傾斜が15度以下の場所で使用すること。傾斜が15度超の場所では使わないこと。
3. 警告: 必ずシートベルトを着用すること。
4. 警告: *オペレーターズマニュアル*を読むこと聴覚保護具を着用すること。 整備作業を行う時は必ず事前にキーを抜き取ること。物が飛び出す危険 人を近づけないこと。



decal111-9834

111-9834

LT3340 モデル 30657

1. 転倒の危険旋回は速度を落として、法面走行は低速で。
2. 転倒の危険傾斜が18度以下の場所で使用すること。傾斜が18度超の場所では使わないこと。
3. 警告: 必ずシートベルトを着用すること。
4. 警告: *オペレーターズマニュアル*を読むこと聴覚保護具を着用すること。 整備作業を行う時は必ず事前にキーを抜き取ること。物が飛び出す危険 人を近づけないこと。

製品の概要

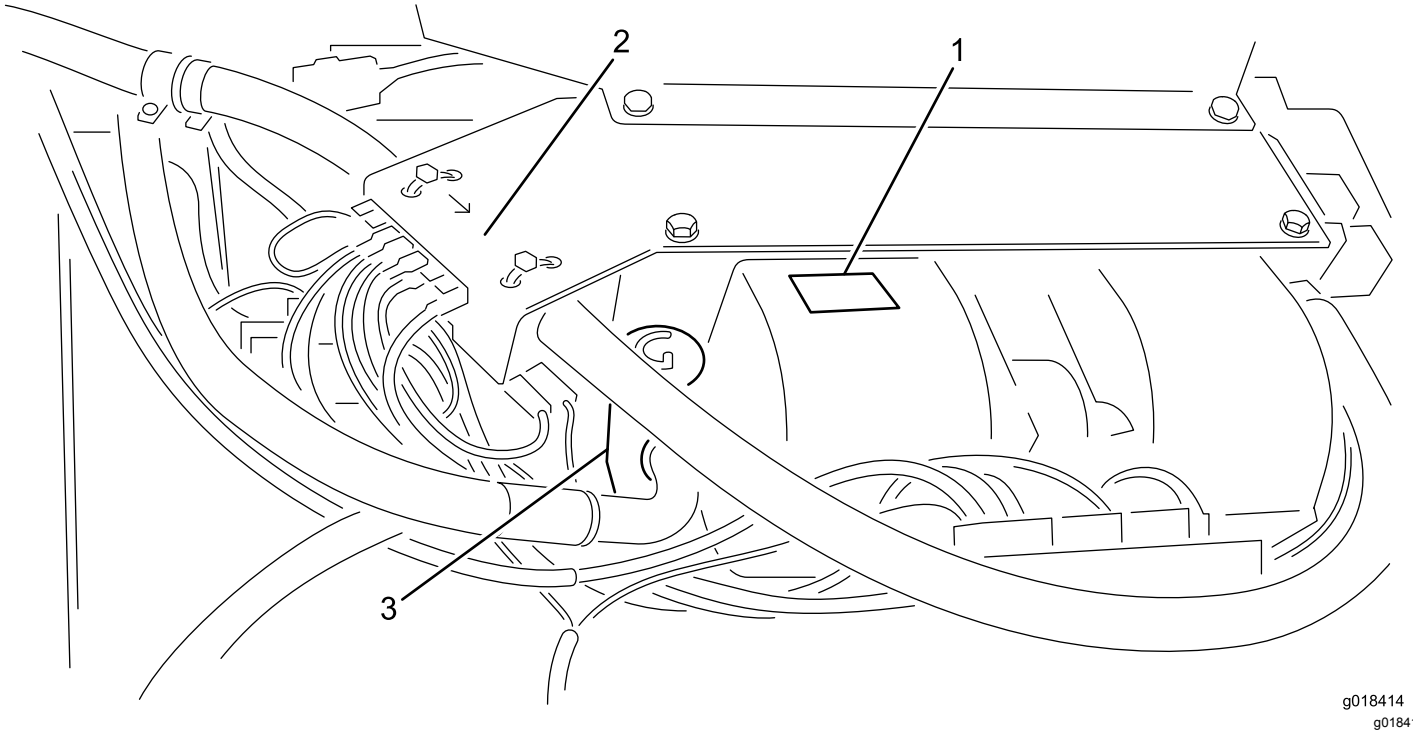


図 3

蒸発器、ヒーター、ファンキャブの屋根の前部に搭載

1. エアコン蒸発器、ヒーター、ダブルラジアルブロア
2. ヒーターバルブ
3. エクスパンションバルブ

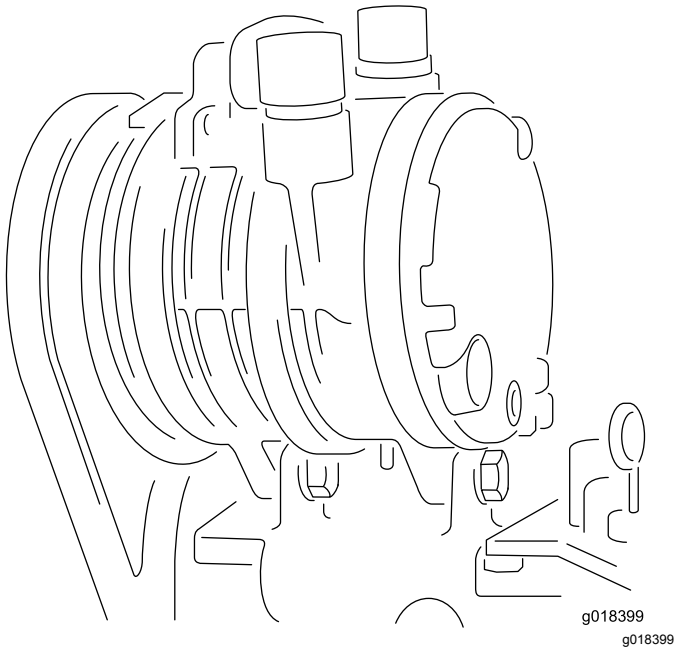


図 4

コンプレッサエンジン部に取り付けられている

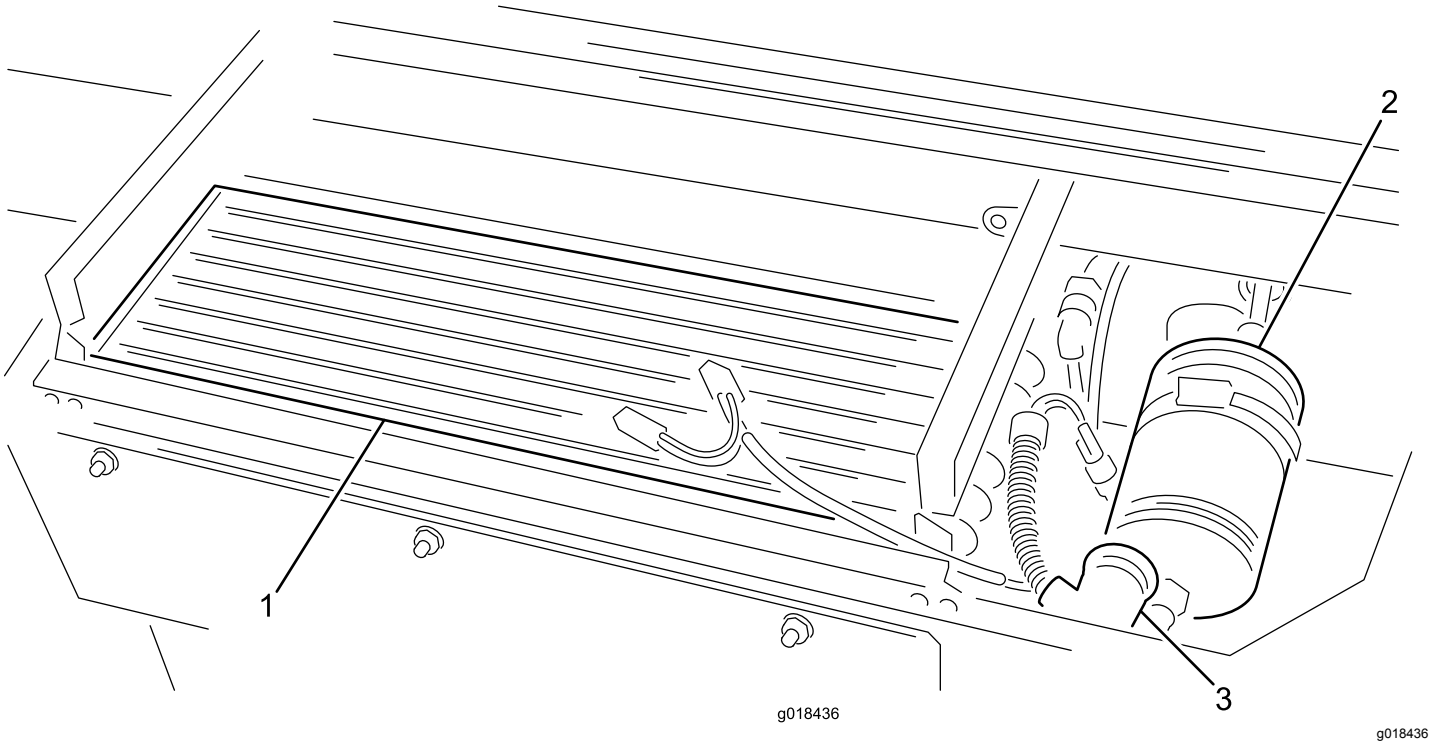


図 5

コンデンサとドライヤ/フィルタキャブの屋根の後部に搭載

1. コンデンサ
2. ドライヤ/フィルタ
3. 圧力スイッチ

各部の名称と操作

ブロアのコントローラ

キャブの天井右側に取り付けられています。

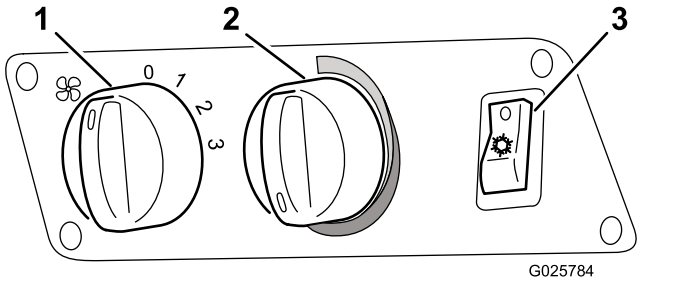


図 6

1. ラジアルブロアの速度スイッチ3ポジション
2. 温度コントローラ
3. エアコンスイッチ

ワイパーとウォッシャーのスイッチ

キャブの天井左側に取り付けられています。

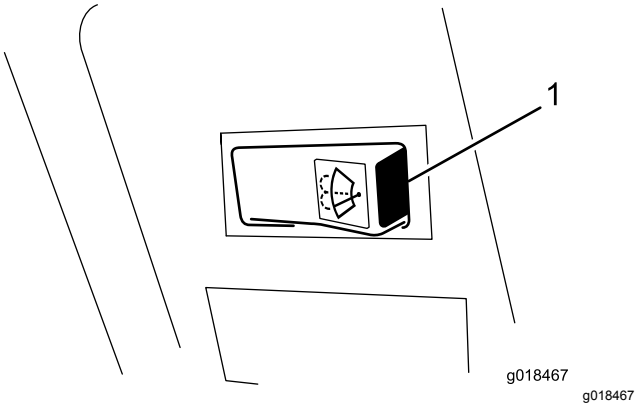


図 7

1. ワイパーとウォッシャーのスイッチ

室内ランプスイッチ

スイッチ図 8の前側を押すとランプが点灯します。後ろ側を押すと消灯します。

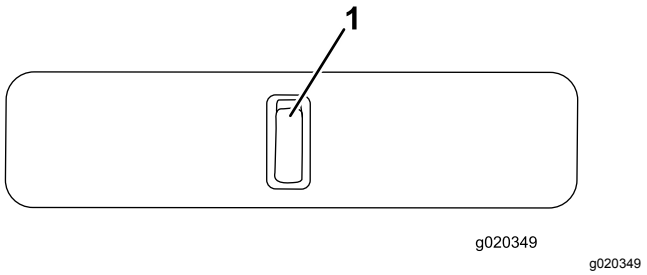


図 8

1. 室内ランプスイッチ

前窓のハンドル2ヶ所

前窓を開けて換気することが可能です。ハンドルが2つあります図 9。

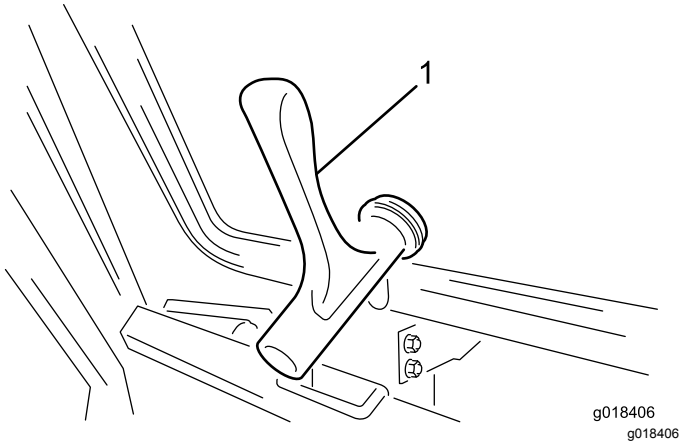


図 9

1. 前窓のハンドル

後窓用のハンドルと支え棒

後窓を開けて換気することが可能です。支え棒を使って、窓を開けた状態に保持することができます図 10。

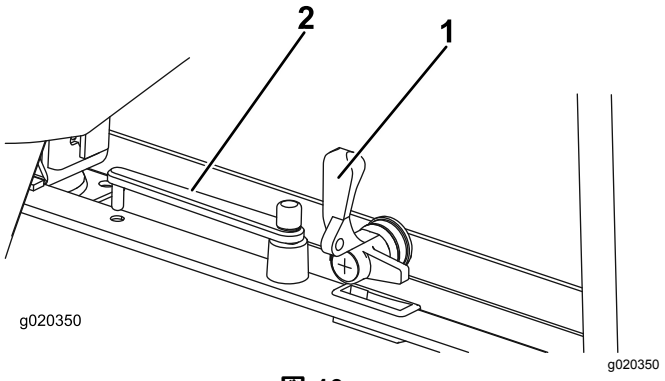


図 10

1. 後窓のハンドル
2. 後窓の支え棒

仕様

注 仕様および設計は予告なく変更される場合があります。

エアコンディショナ	
冷却性能	4.2 kW
冷媒	R134A
冷媒の推奨量	850g 1.87kg
蒸発器ブロアの風量	660m³/h 23,307ft³/h
電気系統	
作動電圧	12 V
ラジアルブロア/コンプレッサ用ヒューズ	15 A
アキシャルブロア用ヒューズ	25 A
コンプレッサ	
名称	TM-08 HS
回転方向プーリを見て	右回り
動作速度	700-6000 rpm
ピストンの排気量	82 cm³/rev 5 inch³/rev
圧力側の接続	¾" の Oリング
吸入側の接続	⅞" の Oリング
電磁クラッチの作動電圧	12 V
電磁クラッチの消費電力	0.45 W
冷媒オイル	ZXL 100 PAG

コンプレッサ内部の冷媒オイルの量	150 cm^3 9.15 $inch^3$
冷媒オイルエアコンディショナシステム分として追加が必要な分	25 $cm^3$1.53 $inch^3$
エアコンディショナシステムの消費電力	2.5 kW

アタッチメントとアクセサリ

トロが認定した各種のアタッチメントやアクセサリがそろっており、マシンの機能をさらに広げることができます。 詳細は弊社の正規サービスディーラ、または代理店へお問い合わせください 弊社のウェブサイト www.Toro.com でもすべての認定アタッチメントとアクセサリをご覧になることができます。

いつも最高の性能と安全性を維持するために、必ずToroの純正部品をご使用ください。 他社の部品やアクセサリを御使用になると危険な場合があり、製品保証を受けられなくなる場合がありますのでおやめください。

運転操作

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

暖房システムの操作

1. エアコンのスイッチを OFF にします。
2. ファンの速度スイッチを適当な位置にセットします。
3. 温度調整スイッチを適当な位置にセットします。
4. 屋根の2ヶ所にある吹き出し口の角度を調整します。

初めて運転する前に

1. エンジンを掛ける。
2. ブロアスイッチを ON にする図 6。
3. エアコンスイッチを ON にする図 6。
4. 温度コントローラ図 6を強冷にセット左一杯まで回す。

   注 3分後に、ローバーから冷気が吹き出してくる。
5. ファンの速度および温度を調整する。

エアコンシステムの操作

エンジンを停止したままで使用しないでくださいエアコンが機能しないばかりか、バッテリーが消耗します。

エアコンを使用しない時期でも、コンプレッサのシャフトのシールを保護するために、14日ごとにエアコンを15分間程度運転してください。

1. ポンプスイッチを ON 位置にする。
2. ファンの速度スイッチを適当な位置にセットします。
3. 温度調整スイッチを適当な位置にセットします。

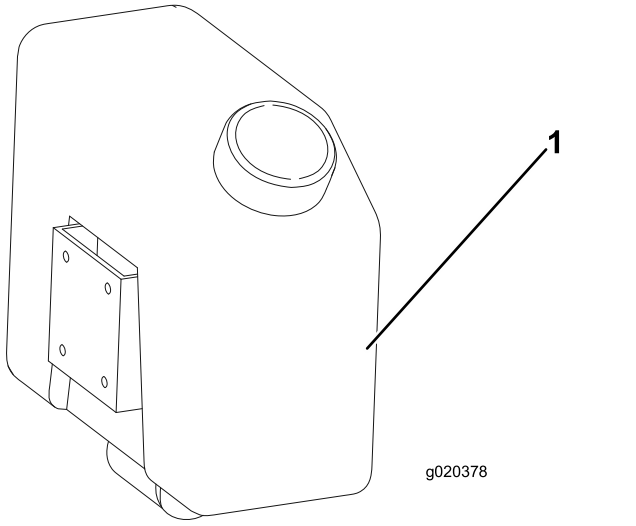
   注 システム内部にサーモスタットが内蔵されており、設定温度に自動的に維持します。

ワイパーとウォッシャーの使用方法

1. スイッチの右側を押すとワイパーが作動を開始します。
2. スイッチを押し続けるとウォッシャーが作動します。
3. スイッチの左側を押すとワイパーの作動が停止します。

ウオッシャー液ボトルへの洗浄液の補充

ボトルには、きれいな真水と、真水の量にふさわしい、適切なウインドウォッシャー液を入れてください図 11。



g020378

図 11

1. ウォッシャー液ボトル

⚠ 警告

低温環境下で不凍仕様でない通常のウォッシャー液を使用すると、ウォッシャー液を拭きつけたときに液が凍結して前方の視界がさえぎられ、重大な事故を誘発する危険があります。

低温環境下気温5℃未満でマシンを使用する場合には、不凍仕様のウォッシャー液をご使用ください。

ウインドウの使用方法

前窓の操作方法

1. 各ハンドルを左に回転させると、窓を押して開けることができます。
2. その位置で各ハンドルを右に回転させると、窓は開けた状態でロックされます。
3. 窓を閉じるには、ハンドルを左に回し、窓を引き寄せるようにして閉じて、ハンドルを右に回してロックしてください。

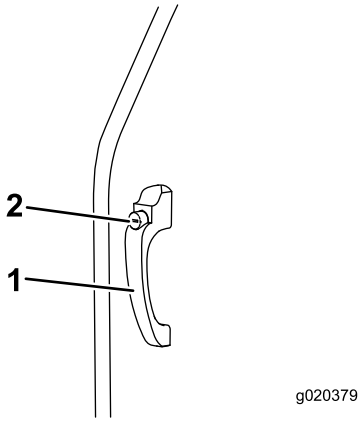
後窓の操作方法

1. 窓についているハンドルを左に回してロックを解除すれば窓を開けることができます。

   注 ガス式のスプリングで窓は全開します。
2. 窓を開けたら、支え棒で保持してください。
3. 後窓を閉じるには、支え棒を外し、窓を引き寄せて閉じ、ハンドルを右に回してロックしてください。

ドアの操作方法

キャブの外側からドアを開けるには、ドアのラッチハンドルについているノブを押し込み、その状態のままでドアを開きます図 12。



g020379

図 12

1. ドアラッチのハンドル
2. ドアラッチのノブ

キャブの家側からドアを開けるには、ドアラッチの解放レバーを引き、そのままドアを開きます図 13。

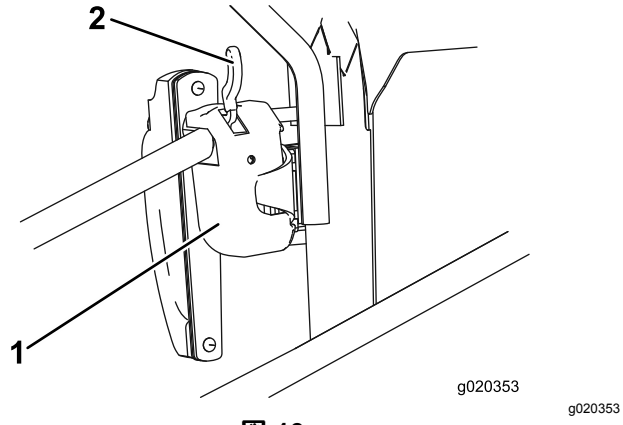


図 13

1. ドアロック
2. 解放レバー

ミラーの調整

運転席に座り、もう一人に手伝ってもらって、側方ミラーの調整を行ってください図 14。

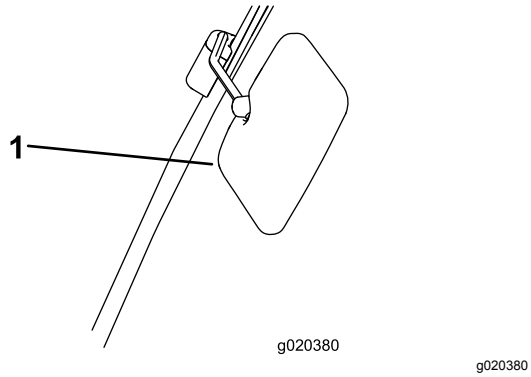


図 14

1. 側方ミラー

保守

注 前後左右は運転位置からみた方向です。
どんな整備を行う時でも、平らな場所に駐車し、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、キーを抜き取ること。

推奨される定期整備作業

整備間隔	整備手順
使用開始後最初の 100 時間	· 接続部に漏れがないかを点検してください。
50運転時間ごと	· 冷媒の量の点検.
250運転時間ごと	· コンプレッサの電磁クラッチが正常に作動することを確認してください。. · 排水経路に詰まりが発生していないか点検し、必要に応じて清掃してください。 · 必要に応じて、コンデンサのフィンを清掃してください。 · 電気ケーブルの点検 · 電気ケーブルの劣化状態と接続状態を点検してください。
500運転時間ごと	· コンプレッサベルトの状態と張りを点検し必要に応じて調整してください。 · ホースに磨耗が発生していないか、全体の状態を点検してください。 · 接続部に漏れがないかを点検してください。. · キャブの屋根についている全天候ユニットに劣化やゆるみが出ていないか点検してください。 · コンプレッサのブラケットがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
2年ごと	· ドライヤ/フィルタの交換.

⚠ 警告

安全サポートブラケットを使用せずにこの機械の整備などを行うと、けがをするなどの危険が大きくなります。

運転台の下、キャブの下で整備作業を行う場合には、必ず安全サポートブラケットを取り付けてください。

⚠ 注意

始動キーをつけたままにしておくと、誰でもいつでもエンジンを始動させることができ、危険である。

整備・調整作業の前には必ずエンジンを停止し、キーを抜いておくこと。

***重要*ヒーター関係の保守整備作業や修理作業は、トロ社代理店または、暖房システムメーカーの専門員に依頼してください。**

***重要*エアコンシステムのうち、冷媒に関わる作業はすべて、正式な資格を有する人が行ってください。**

- エアコンシステムは、刈り込みシーズンを通じてずっとご使用いただけます。システムを正常に効率よく作動させ、寿命を十分に伸ばすために、本書に記載されている整備作業を必ず実施してください。本書に指示・記載されている保守整備作業を怠ると、製品保証が適用されなくなる場合がありますからご注意ください。
- エアコンシステムを時々しか使用しない場合であっても、経年劣化や冷媒の抜けが発生する可能性がありますから定期整備を行うことが必要です。
- コンデンサと蒸発器のフィンは、圧縮空気で通常の空気の流れと逆の方向に吹いて清掃してください。グリス状の付着物が発見された場合には、研磨剤を含まない普通の洗剤で拭きとってください。
- 冷媒の量が不足していると、冷房効率が低下します。
- 冷媒の量が極端に少なくなると、低圧スイッチが働いてシステムを自動的に停止させます。
- 冷媒の量は、回収タンクについている点検窓で確認することができます。冷媒を追加した場合には、システムを5分間ほど運転し、冷媒回路に入っている空気をパージしてください。エアパージが終了したら、冷媒の量を点検してください。時々泡が見えるのは問題ありません。

  ***重要*コンプレッサのオイルを車両に落とさないでください。 万一車両に触れると、車両のペイントの脱色や、アクリル、ABS樹脂部分などを劣化させます。**

- 全天候ホースを取り付ける際には、シールリングに冷媒オイルを塗布してください。
- エアコンシステムから全天候ホースを外した時には、必ずOリング冷媒134A用の特殊製品ですを新しいものに交換してください。
- フィッティングを締め付けたり緩めたりする場合には、必ずレンチを2本使用し、チューブをねじらないように十分注意してください。

冷媒の圧力を点検する

エアコンシステムが作動中は、吸い込み側と圧力側とでは作動圧が異なっています。

この圧力差は、コンプレッサの運転速度、車両の車内温度、外気温、相対湿度などによって変化します。

しかし、以下の表に示した値から外れている場合には、システムが故障している可能性があります。

圧力測定方法コンプレッサの作動速度を 2000 rpm に設定する気温は 20-40 ℃ブロアを設定3最高速度で作動させる

システム内の冷媒圧力

外気温	低圧側	高圧側
20° C	1.7-2.1 Bar1.7-2.1 kg/cm2 = 24.7-30.5 psi	10-14 Bar10.2-14.2 kg/cm2 = 145-203 psi
25° C	1.8-2.2 Bar1.8-2.2 kg/cm2 = 26.1-31.9 psi	12-16 Bar12.2-16.2 kg/cm2 = 174-232 psi
30° C	1.9-2.3 Bar1.9-2.3 kg/cm2 = 27.6-33.4 psi	14-18 Bar12.2-16.2 kg/cm2 = 203-261 psi

圧力正常でない場合の判断

圧力試験中に、表の数値から外れた値が表示される場合があります。その原因を突き止めることで、パーツの交換や修理が必要かどうかを判断することができます。

以下に、異常値の例とその原因をまとめます。

- **高圧側の圧力計の読みが高すぎる**
  - コンデンサの内部の空気の量が少ない。
  - 冷媒の量が多すぎる。
  - ドライヤ/フィルタが詰まっている。
- **高圧側の圧力計の読みが低すぎる**
  - 冷媒の量が少なすぎる点検窓で確認
  - コンプレッサの運転速度が低すぎる駆動ベルトを点検。
  - コンプレッサ自体のトラブル。
- **低圧側の圧力計の読みが高すぎる**
  - 膨張バルブの調整不良。
  - コンプレッサの運転速度が低すぎる駆動ベルトを点検。
  - コンプレッサ自体のトラブル。
- **低圧側の圧力計の読みが低すぎる**
  - 吸い込み側または圧力側ホースの詰まり。
  - 膨張バルブの調整不良。
  - 冷媒の量が少なすぎる沈殿物回収容器を確認。
  - 蒸発器の内部の空気の量が少ない。

  専門家に依頼して各部の圧力が正常になるように修理調整してもらう。

重要 **冷媒を外気中に放出しないでください。冷媒回路の接続部を開いたり外したりする前に、必ず冷媒を所定のリサイクル容器に回収し、回収した冷媒は適切な方法で処分してください。**

エアコンシステムの整備や修理は、必ずトロの純正部品を使用して行ってください。

冷媒の量の点検

整備間隔: 50運転時間ごと

冷媒の量が運転のために適切な量となっていることを確認してください。冷媒の量が減ってくるにつれて、点検窓から見える泡の量が増えてきます。冷媒の量が不足していると、冷房効率が低下します。冷媒の量が極端に少なくなると、低圧スイッチが働いてシステムを自動的に停止させます。

1. 回収タンクについている点検窓で、冷媒の量を確認してください図 15。

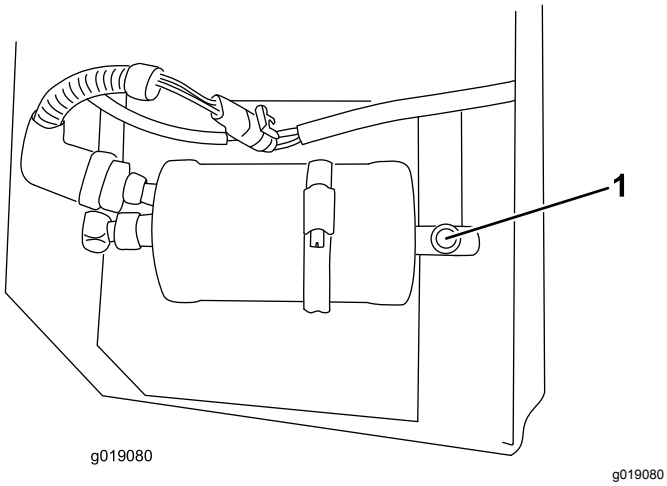


図 15

1. 冷媒点検窓

2. 冷媒を追加した場合には、システムを5分間ほど運転し、冷媒回路に入っている空気をパージしてください。
3. エアパージが終了したら、冷媒の量を点検してください。

   注 時々泡が見えるのは問題ありません。

コンプレッサの電磁クラッチの点検

整備間隔: 250運転時間ごと

コンプレッサのスイッチをONにしたときに、カチッという音が聞こえれば、電磁クラッチは正常に作動しています 図 16。

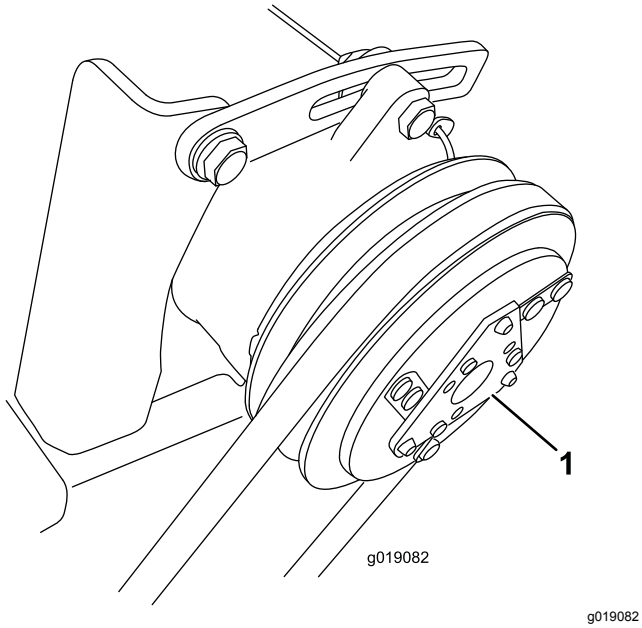


図 16

1. コンプレッサの電磁クラッチ

ドレンチューブの点検

整備間隔: 250運転時間ごと

排水チューブは、コンデンサから出ている透明な樹脂性のチューブです。このチューブは、コンデンサからキャブの柱沿いにキャブのフロント部の下まで続いています図 17。排水に詰まりが発生していないか点検、必要に応じて清掃してください。

チューブが詰まっていたら、パイプクリーナのような道具を使うか、チューブを外して圧縮空気で吹くかして清掃してください。

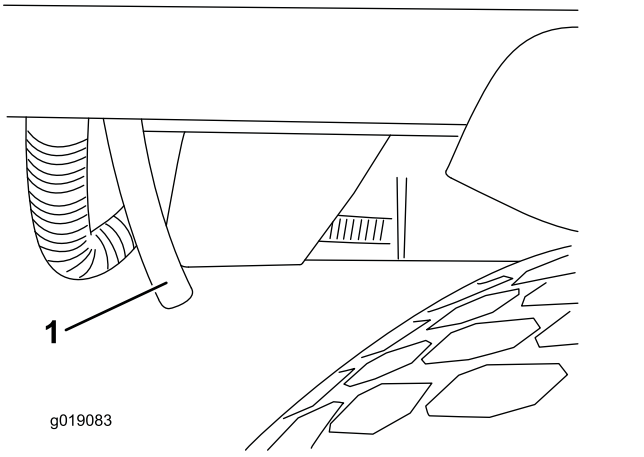


図 17

1. ドレンチューブ

注 パイプクリーナなどの道具が詰まっている部分までとどかない場合には、チューブの接続部分でチューブを外し、圧縮空気で内部を清掃してください図 18。

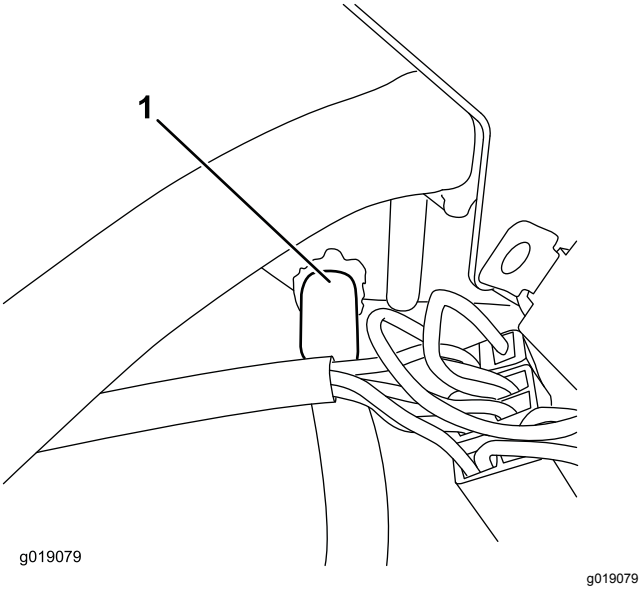


図 18

1. ここでチューブを外す.

コンプレッサのファンベルトの点検

整備間隔: 500運転時間ごと

1. プーリとプーリとの中間部を 40 N約4.5 kg の力で押した時に、10 mm 程度のたわみがあれば適正です。
2. たわみがこの値でない場合には、上下のコンプレッサ取り付けボルトをゆるめて調整します。

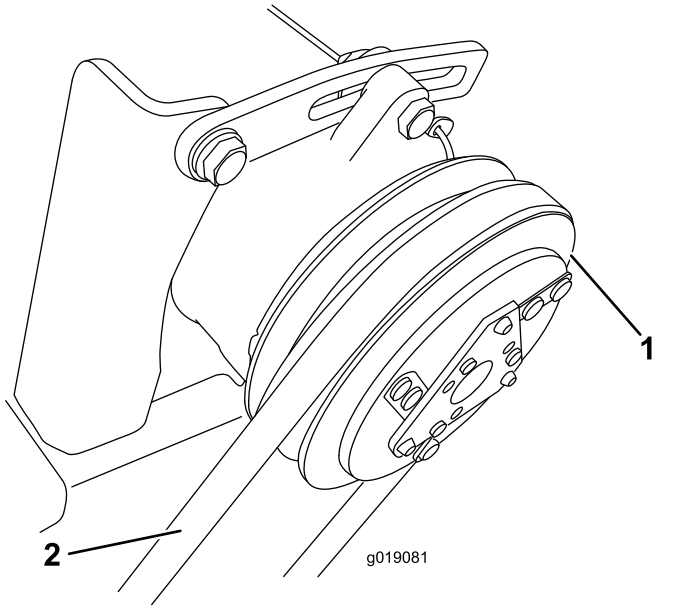


図 19

1. コンプレッサ
2. ここでベルトのたわみを点検。

3. コンプレッサベルトの張りを調整し、ボルトを締め付ける。
4. もう一度ベルトのたわみを点検し、適切に調整されたことを確認してください。

キャブを倒すには

運転台の下の清掃や整備作業を実施しやすくするためにキャブを倒すことができます。

キャブと運転台とは一体で倒れます。運転台を倒した際の傾斜角度は、キャブをつけていない場合よりも小さくなります。これは、キャブを倒した場合であってもマシンが十分に安定した駐車姿勢を保持できるように設計しているためです。

キャブを倒すには

1. Rクリップを外して、キャブの後部についているロッキングレバー2本を上向きにする図 20。

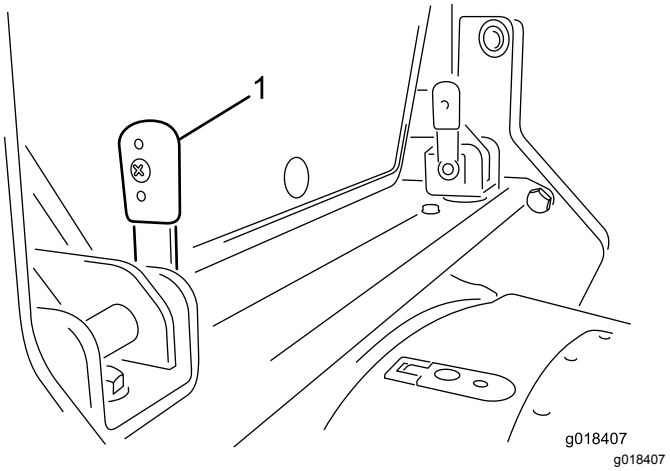


図 20

1. ロッキングレバー2本 上向き縦にした状態

2. 両方のレバーを内側にスライドさせてブラケットから外す。

   注 レバーが動かしにくい時には、ロッキングペグをブラケットのスロットに合わせてレバーを外してください。

3. キャブの左右両側の後コーナー柱には、キャブを持ち上げるための握りハンドルがついている。どちらかのハンドルを持ち上げる。

   注 ガス充填補助スプリングの働きによりキャブはゆっくりと持ち上がり、最高位置にて自動的に停止する。

4. キャブを完全に上昇させたら、安全サポートブラケットを以下の手順で取り付ける

   A. 格納ポッドから安全サポートブラケットを取り出す。

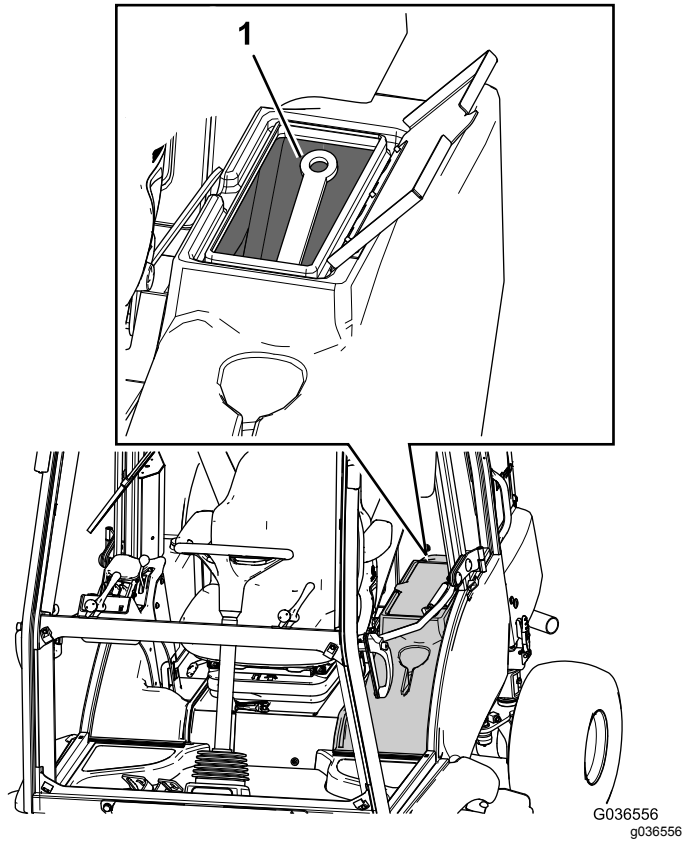


図 21

1. 安全サポートブラケット

B. 2つのクロスビームブラケットのうちの一方のブラケットに安全サポートブラケットを入れ、対応するロッキングレバーを両方のブラケットに通し、下向きに回す。

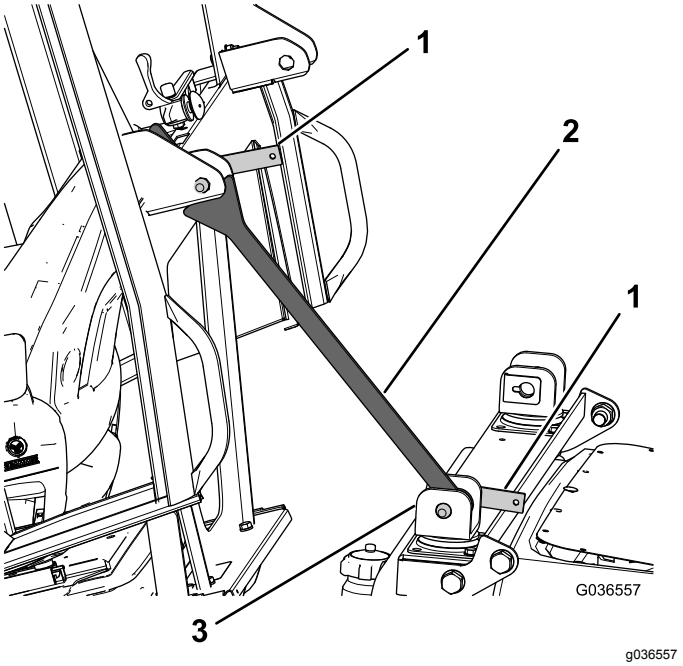


図 22

1. ロックレバー
2. 安全サポートブラケット
3. クロスビームブラケット

C. 安全サポートブラケットが固定されたら、クロスビームブラケットをキャブ側へ回転させて、キャブの後部にあるブラケットにセットする図 22。

D. 安全ブラケットが外れないように、残っているロッキングレバーを上側のブラケットに入れる図 22。

キャブを下降させるには

1. サポートブラケットを取り外す手順
   A. 安全サポートブラケットをクロスビームブラケットに固定している2本のロッキングレバーを外す。
   B. クロスビームブラケットから安全サポートブラケットを取り出す。
   C. 安全サポートブラケットを格納ポッドに収納する図 21。
2. どちらかのハンドルを持ってキャブを引き降ろす。キャブ後部のブラケットがクロスビームのブラケットに嵌ればよい。
3. 縦位置になっているレバー図 20を、ブラケットにセットする。

   注 レバーを前後に動かしてロッキングペグをスロットに整列させてください。
4. レバーが奥まで入ったら、レバーを後方に回してロックします図 23。

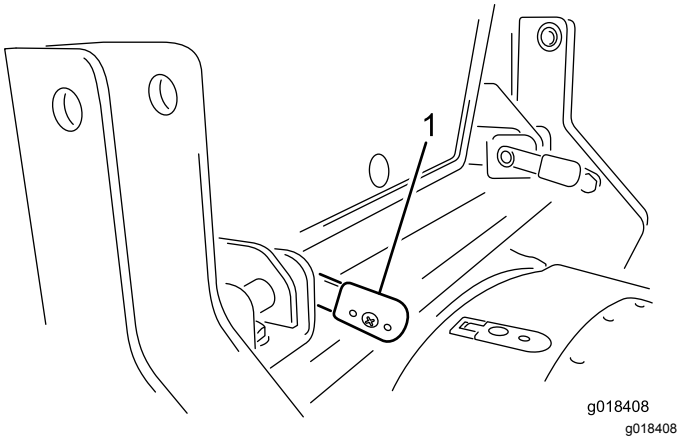


図 23

1. ロッキングレバー2本 下向き横にした状態

5. Rクリップを取り付ける。

ヒューズの搭載位置

キャブ用のヒューズは、キャブのヘッドライナについているヒューズボックスの中にあります図 24。

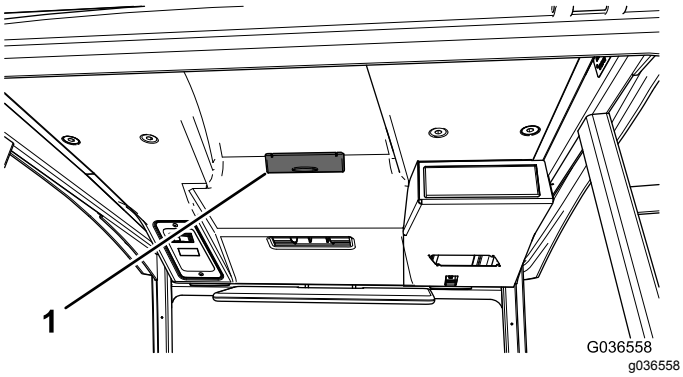


図 24

1. キャブのヒューズボックス

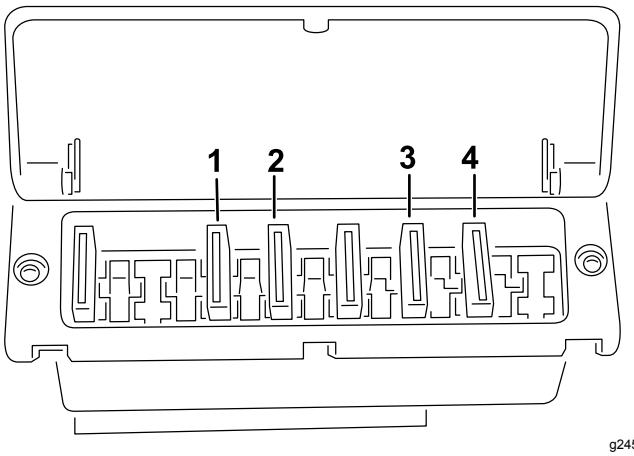


図 25

1. 25 A
2. 15 A
3. 5 A
4. 5 A

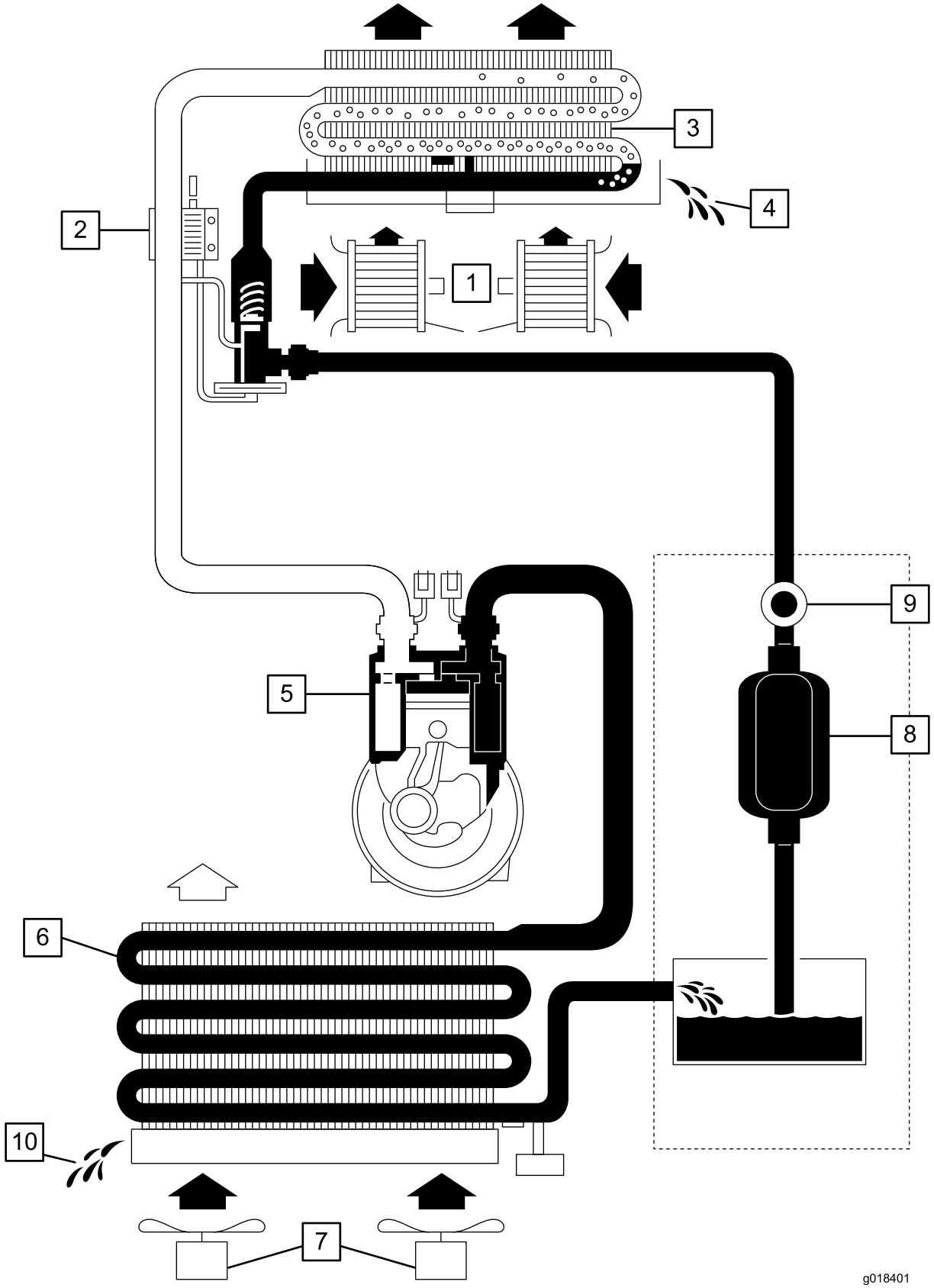
マシンとキャブの洗浄

機体やキャブの洗浄を行うとき、ルーフ部分に水を向けないでください。

保管

車両の格納についての詳細は、トラクションユニットの
オペレーターズマニュアル を参照してください。

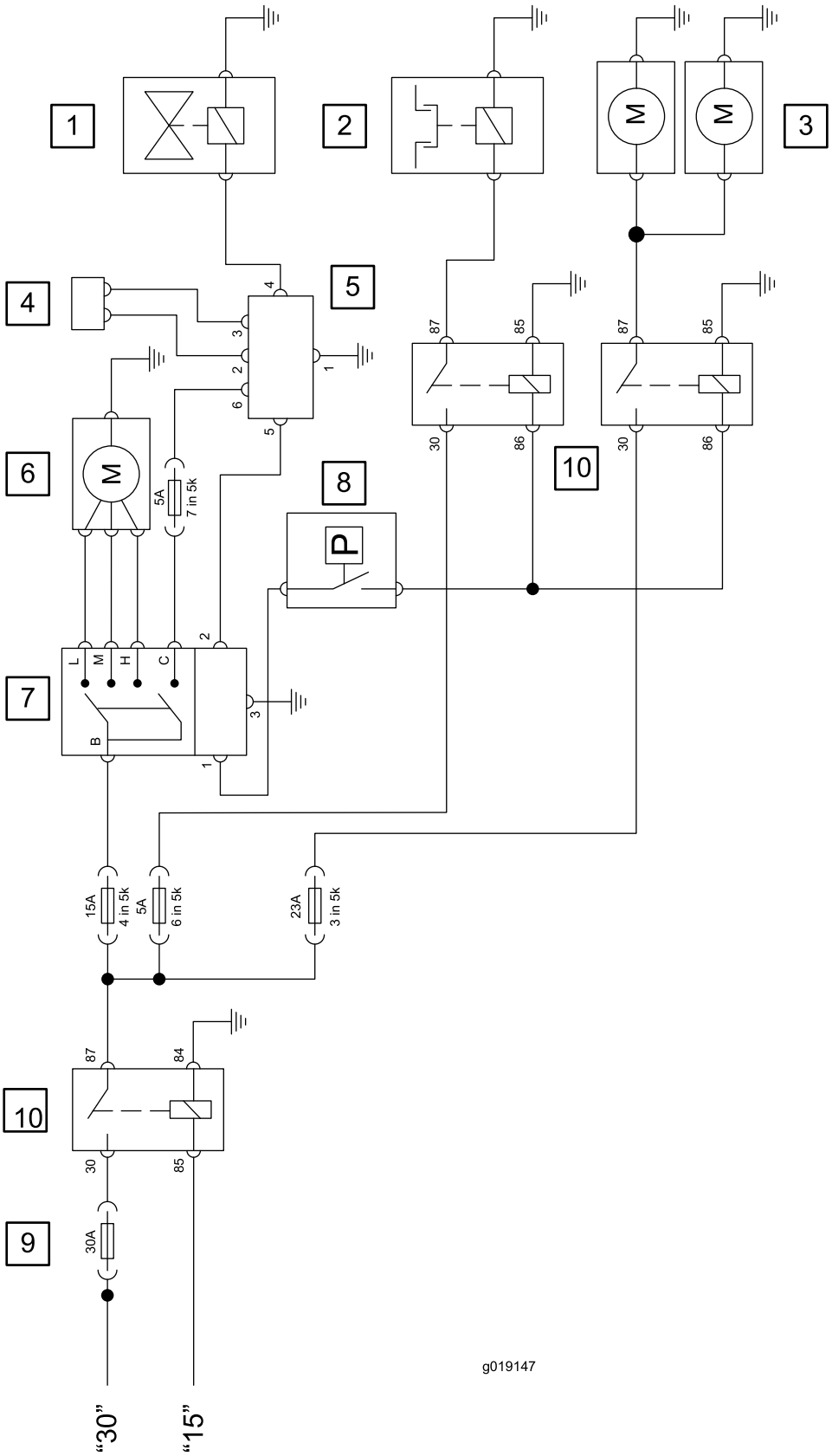
図面



g018401

1	ラジアルブロア
2	エクスパンションバルブ
3	蒸発器暖房用熱交換器と一体
4	コンデンサ凝縮器ー水
5	コンプレッサ
6	コンデンサ凝縮器
7	アキシャルファン
8	ドライヤ/フィルタ
9	点検窓
10	ドレン

エアコンディショニング・システムの機能図 (Rev. n/a)


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
10
M
M
M
P
L
M
H
C
B
5A
7 in 5k
15A
4 in 5k
5A
6 in 5k
23A
3 in 5k
30A
87
85
30
86
84
"30"
"15"
g019147

g019147

1	ヒーターバルブ
2	コンプレッサ電磁クラッチ付き
3	ツインアキシャルファン
4	温度センサー
5	電子レギュレータ
6	ラジアルブロアファン
7	ブロアの速度スイッチ
8	圧力スイッチ
9	メインヒューズエンジンルーム内
10	リレー

エアコンディショニング・システムの電気配線図 (Rev. n/a)

メモ

メモ

メモ

組込宣言書

The Toro Company, 8111 Lyndale Ave. South, Bloomington, MN, USA は、以下に挙げるユニットが、以下に列挙する指令に適合していることをここに宣言しますただし、各ユニットに付属する説明書にしたがって、「適合宣誓書」に記述されている所定のトロ社製品に取り付けることを条件とします。

モデル番号	シリアル番号	製品の説明	請求書の内容	概要	指示
02895	400000000 以上	全天候キャブ、LT シリーズのトリプルターフモアおよび Groundsmaster® 3400 シリーズのトラクションユニット用	CAB W/ AIR-CONDITIONER	キャブ	2014/30/EU 2006/42/EC

2006/42/EC別紙VIIパートBの規定に従って関連技術文書が作成されています。

本製品は、半完成品状態の製品であり、国の規制当局の要求があった場合には、弊社より関連情報を送付いたします。ただし、送付方法は電子的通信手段によるものとします。

この製品は、製品に付随する「規格適合証明書」に記載されている承認済みのトロ社製品に取り付けることによって、関連する諸規制に適合するものであり、そのような状態でなければ使用することができません。

確認済み



John Heckel
上級エンジニアリングマネージャ
8111 Lyndale Ave. South
Bloomington, MN 55420, USA
January 22, 2018

権限を有する代表者

Marcel Dutrieux
Manager European Product Integrity
Toro Europe NV
Nijverheidsstraat 5
2260 Oevel
Belgium

Tel. +32 16 386 659

欧州におけるプライバシー保護に関するお知らせ

トロが収集する情報について
トロ・ワランティー・カンパニートロは、あなたのプライバシーを尊重します。この製品について保証要求が出された場合や、製品のリコールが行われた場合にあなたに連絡することができるように、トロと直接、またはトロの代理店を通じて、あなたの個人情報の一部をトロに提供していただくようお願いいたします。

トロの製品保証システムは、米国内に設置されたサーバーに情報を保存するため、個人情報の保護についてあなたの国とまったく同じ内容の法律が適用されるとは限りません。

あなたがご自分の個人情報を提供なさることにより、あなたは、その情報がこの「お知らせ」に記載された内容に従って処理されることに同意したことになります。

トロによる情報の利用
トロでは、製品保証のための処理ならびに製品にリコールが発生した場合など、あなたに連絡をすることが必要になった場合のために、あなたの個人情報を利用します。また、トロが上記の業務を遂行するために必要となる活動のために、弊社の提携会社、代理店などのビジネスパートナーに情報を開示する場合があります。弊社があなたの個人情報を他社に販売することはありません。ただし、法の定めによって政府や規制当局からこれらの情報の開示を求められた場合には、かかる法規制に従い、また弊社ならびに他のユーザー様を保護する目的のために情報開示を行う権利を留保します。

あなたの個人情報の保管について
トロでは、情報収集の当初の目的を遂行するのに必要な期間にわたって、また法に照らして必要な期間法律によって保存期間が決められている場合などにわたって情報の保管を行います。

トロはあなたの個人情報を保護します
トロは、あなたの個人情報の保護のために妥当な措置を講ずることをお約束します。また、情報が常に最新の状態に維持されるよう必要な手段を講じます。

あなたの個人情報を訂正したい場合などのアクセス方法
ご自身の個人情報を確認・訂正されたい場合には、legal@toro.com へ電子メールをお送りください。

オーストラリアにおける消費者保護法について

オーストラリアのお客様には、梱包内部に資料を同梱しているほか、弊社代理店にても法律に関する資料をご用意しております。

Toro 製品の総合品質保証

限定保証

保証条件および保証製品

Toro® 社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品「製品」と呼びますの材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500運転時間*のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証はエアレータを除くすべての製品に適用されますエアレータに関する保証については該当製品の保証書をご覧下さい。 この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。
*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われた場合には、「製品」を納入した弊社代理店ディストリビュータ又はディーラー に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196
E-mail: commercial.warranty@toro.com

オーナーの責任

「製品」のオーナーは、オペレーターズマニュアルに記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません

- Toroの純正交換部品以外の部品や Toro 以外のアクサセリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。 これらの製品については、別途製品保証が適用される場合があります。
- 推奨される整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。 *オペレーターズマニュアル* に記載されている弊社の推奨保守手順に従った適切な整備が行われていない場合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレーキバッドおよびライニング、クラッチライニング、ブレード、リール、ベッドナイフ、タイン、キャスタホイール、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、この他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、チェックバルブなどが含まれます。
- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない冷却液や潤滑剤、添加剤、肥料、水、薬剤の使用などが含まれます。
- 通常の使用にともなう音、振動、磨耗、損耗および劣化。
- 通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類「部品」は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって交換された部品は製品の当初保証期間中、保証の対象となり、取り外された製品は弊社の所有となります。 部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。場合により、弊社は再製造部品による修理を行います。

ディープサイクルバッテリーの保証について

ディープサイクルバッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量kWhが決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。 バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。 このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。 本製品の保証期間中に、上記のような通常損耗によってオーナーの負担によるバッテリー交換の必要性がでてくることは十分に考えられます。

保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

保証の対象とならない部品や作業など エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「製品」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。

商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。米国内では、間接的偶発的損害に対する免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。

この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

米国とカナダ以外のお客様へ

ご自分の国や地域における製品保証内容の詳細については、ご購入先の弊社代理店ディストリビュータまたはディーラにお尋ねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は輸入元にご相談ください。輸入元の対応にご満足頂けない場合は本社へ直接お問い合わせください。